

「夢や希望をもち、主体的に学び、たくましく伸びていく由宇っ子の育成」をめざして由宇小学校で取り組んでいくこと

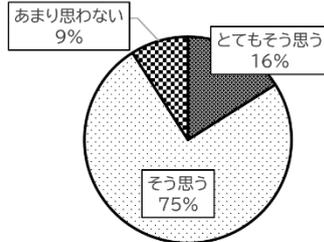
**アンケート最終
回答率は
約61%でした。**

学校評価アンケートの結果から見えてきた実態や課題が、「夢や希望をもち、主体的に学び、たくましく伸びていく由宇っ子の育成」をめざして学校と家庭、地域が一体となった取組を進めていくヒントとなります。今回、結果をもとにプロジェクトごとに取組や改善点をまとめました。無回答がある項目は、100%になっていません。

1 主体的な学びプロジェクトに関すること

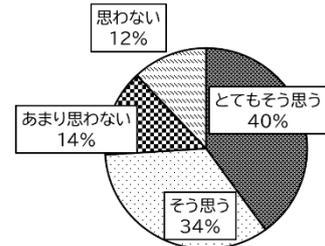
わかる・できる→楽しい授業をめざして

【保護者】 由宇小は、授業を工夫したり個別指導を充実させたりして子どもの学力向上に努めている【保護者】



【児童】

勉強は楽しい【児童】



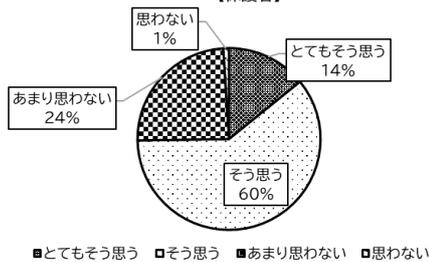
現状 90%の保護者の方から授業改善について肯定的な回答をいただきました。しかし、一方で、26%の子どもたちは、勉強の楽しさをあまり味わうことができていないことが分かります。

手立て 課題に対してつまずきを感じている児童が、「分からないこと」を「分からない」と発言できる授業の雰囲気作りに努めていきます。これまで以上に評価の充実に努め、授業改善に活かしていきます。ご家庭でのお気付きを教えていただくと同時に、お子さんの背中を押していただけると幸いです。「できる」と感じ、「勉強は楽しい」と思えるよう努めていきます。

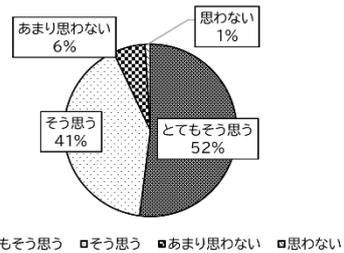
2 豊かな心プロジェクトに関すること

思いやりのある学校を目指して

【保護者】 お子様は、家庭や学校で（自分から）あいさつをしている。【保護者】



【児童】 家庭や地域で（自分から）あいさつをしていますか【児童】

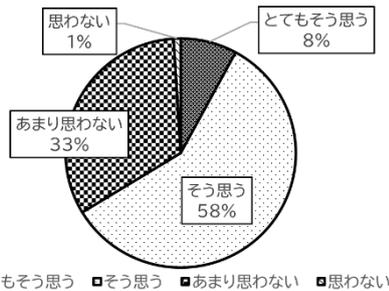


現状 「自分からあいさつ」の項目（中学校区共通指標）では、子どもは「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて90%以上が肯定的な回答をしています。子どもと保護者の肯定的な意見を比較してみると、望ましい挨拶への意識の違いがあります。大人が求めるような望ましい挨拶ができていない要因としては、コロナ禍の影響で、人との関わりや声を出して相手に気持ちを伝えることに抵抗を感じていることも考えられます。

手立て 学校としては、子どもたちの発達段階に応じて、望ましい挨拶の仕方について繰り返し確認をして、進んで挨拶ができる子どもの育成に努めます。そこで、生活委員会を中心に子ども主体の活動を計画し、民生委員さんとの挨拶運動への取組を一層進めていきます。これからも気持ちのよいあいさつや返事を、家庭、学校、地域のいずれの場所でも大切にできるよう、地域の方々への理解や協力を得ながら指導を進めていきたいと考えています。

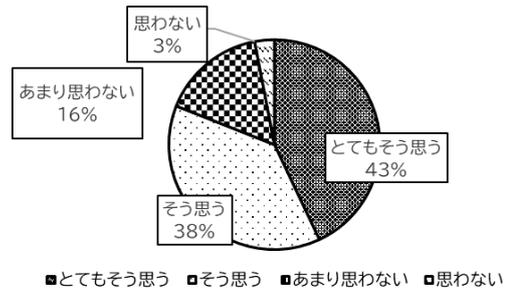
【保護者】 お子様は、自分の考えを相手に伝えることができる。

【保護者】



【児童】

自分の考えを相手に伝えることができますか【児童】



現状 「自分の考えを相手に伝える」の項目(中学校区共通指標)では、肯定的な回答が子どもは80%以上で、保護者は60%でした。「あまり思わない」「思わない」が20%となっています。意識の違いが見られます。

手立て 授業での様々な場面で、ペアやグループ・集団での対話を仕組みます。段階的に対象を増やすことで話すことに慣れさせ、自分の考えに自信をもたせます。交流活動に苦手意識がある子どもも場の雰囲気慣れ発言への抵抗感を軽減できるように努めていきます。

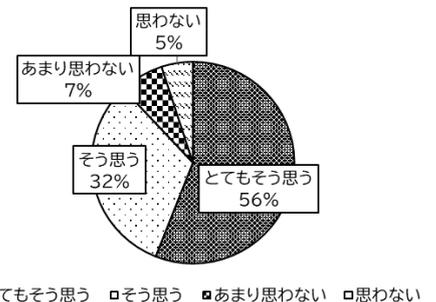
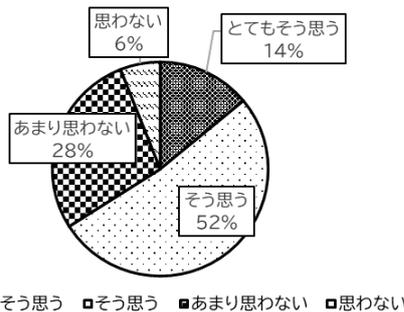
3 たくましい体プロジェクトに関すること

良い生活習慣の育成をめざしてメディアコントロール

【保護者】 お子様は家庭で決めたメディアの約束を守っている

【児童】

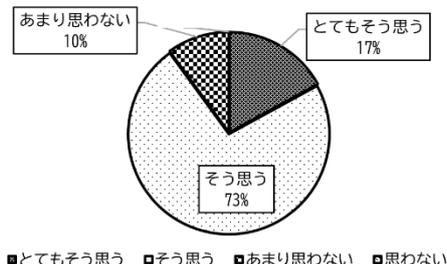
タブレットのきまり等、メディアの約束を守っていますか【児童】



現状 「メディアの約束を守る」の項目では、児童は約90%、保護者の66%が肯定的な回答でした。一方で「家庭での約束を守れていない」と思われる児童が、34%となっており、親子で意識の違いがあることがわかります。

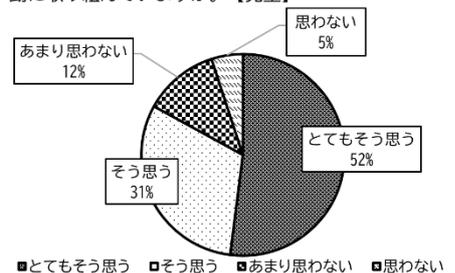
手立て 夏休みの宿題で家族で話し合って決めた「我が家のメディアルール」について、再度お子さんと話す時間を作ってみてください。メディアとの上手な付き合い方ができるルールを作り、守っていく意識が継続することで、良い生活習慣の定着につながります。今後もメディアの効果的な活用的一方で、依存や長時間の使用から離れていけるような取組を継続するよう努めていきます。

【保護者】 学校は、児童の体力向上に取り組んでいる。(体育・外遊び・おうちで運動)【保護者】



【児童】

休み時間には、元気に外で遊んだり、家では「おうちで運動」に取り組んでいますか【児童】



現 状 「体力向上」の項目では、児童、保護者の方とも肯定的な回答が 80%以上と高くなっています。学校や家庭での運動習慣が定着してきた成果と考えられます。児童では、運動を「する子」と「しない子」の 2 極化が見られます。またコロナ禍による身体活動の制限により、多様な運動の経験不足から体の使い方、動かし方に起因してけがにつながる事案が生じ、体力向上の取組が必要です。

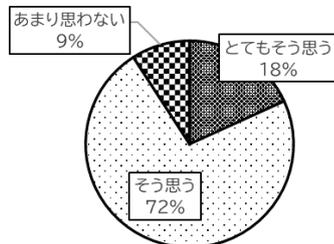
手立て 学校としては、外遊びの奨励、ドラえもん体操や縄跳びカード等の取組を継続していきます。体育科の授業と授業外の活動が両輪となり、運動好きの子どもを育成し体力向上を推進していきます。また、「おうちで運動」の宿題を毎日出していますので、引き続きご家庭での声かけをお願いします。

4 地域との連携プロジェクトに関すること

地域とのつながりを大切にした取組に

【保護者】

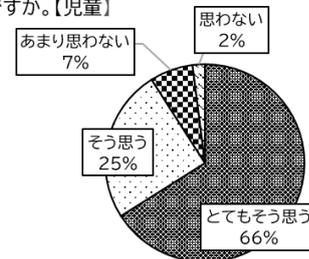
学校は、地域の人材を有効に活用している【保護者】



■とてもそう思う ■そう思う ■あまり思わない ■思わない

【児童】

地域の方と一緒に活動したり、勉強したりするのは楽しいですか。【児童】



■とてもそう思う ■そう思う ■あまり思わない ■思わない

現 状 「地域とのつながり」についての項目では、児童、保護者とも肯定的な回答が90%以上です。山口県では、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、社会総がかりで子ども達の学びや育ちを見守り、支援する取組を推進しています。本校の学校運営協議会や由宇町の「結愛ネット」を通じて、これまでも安全ボランティアやクラブ活動など、様々な方々にご協力いただいています。アンケート結果からも子ども達は地域の方との学習や地域についての学習を楽しみにしていることがわかります。

手立て コロナ禍による制約が緩和される中で、学校の教育活動においても新しい形を模索しながら、子どもたちと地域の方々がつながる機会を創出し連携して取り組んでいきます。また、学習の成果や取組の様子についてホームページや学級・学年便りを通じて保護者の皆様、地域の皆様にも積極的に情報を発信していきます。